

史跡柳田布尾山古墳
整備事業報告書

2006年3月

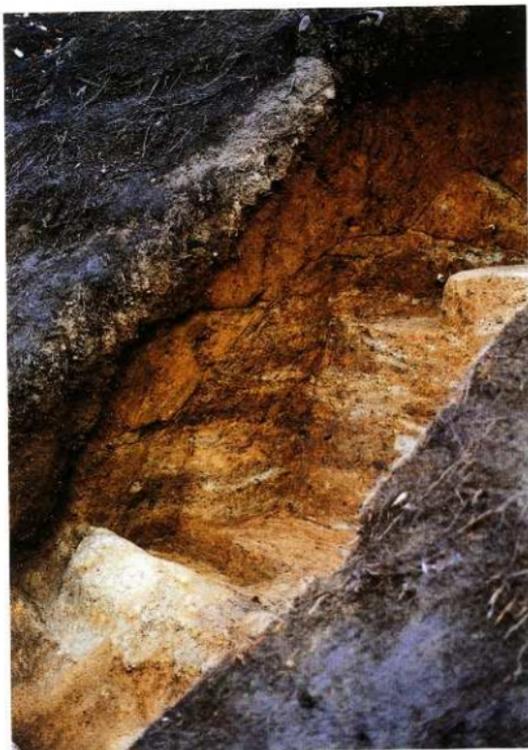
氷見市教育委員会



1. 柳田布尾山古墳と富山湾(西から)



2. 柳田布尾山古墳と二上山(北から)



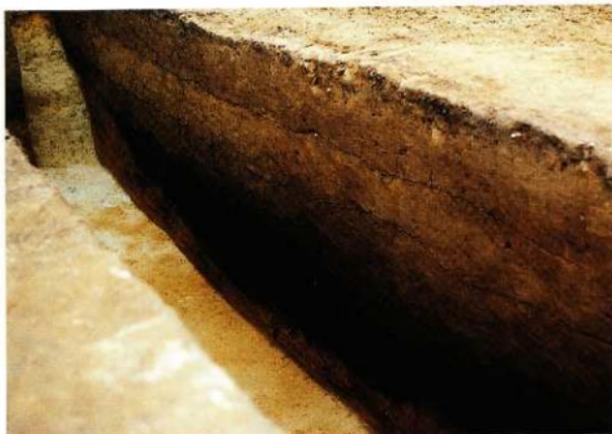
1. 後方部埋葬施設の土層(南から)



2. 後方部埋葬施設粘土層残欠(西から)



1. 前方部周濠の様子（北から）



2. 前方部周濠の土層（北から）



1. 前部東側階の様子（南から）



2. 前部東側の様子（東から）

史跡柳田布尾山古墳 整備事業報告書

2006年3月

氷見市教育委員会

序

水見市は富山県の北西部、能登半島の付け根東側に位置し、天気の良い日には富山湾越しに立山連峰を望むことができる、風光明媚な土地であります。

またここは、大正年代に発見され調査が行われた二つの国指定史跡、大境洞窟住居跡と朝日貝塚に代表される、史跡に恵まれた場所でもあります。

平成10年6月の西井龍儀先生による柳田布尾山古墳の発見は、こうした水見の土地柄を改めて見つめ直すきっかけとなり、多くの市民が本市の豊かな歴史に関心を寄せることになりました。

幸い、本古墳は文化財としてその価値が認められ、平成13年1月に国指定史跡となりました。

これを機に水見市では、より積極的に古墳の保護・活用を図るために、平成13・14年度に土地の公有化を行い、平成15年度から古墳の整備事業を進め、平成18年4月からは、いよいよ公園として開園する運びとなりました。

この場所が、水見の歴史を学ぶ学校教育や生涯学習の場として、また市民や水見市を訪れる観光客の憩いの場として末永く愛され、活用されることを願ってやみません。

終わりに、発見以後ご協力・ご援助をいただきました地元柳田地区の皆様方をはじめとする関係者の皆様方、保存・整備等にご指導をいただきました文化庁、富山県教育委員会、富山県埋蔵文化財センター並びに各検討委員の皆様方に、厚く御礼を申し上げ、発刊の言葉といたします。

平成18年3月

水見市教育委員会

教育長 中尾 俊雄

例 言

- 1 本書は、富山県水見市柳田地内に所在する、史跡柳田布尾山古墳の整備事業報告書である。
- 2 柳田布尾山古墳に関する事業は水見市教育委員会が主体となり、平成10～12年度に発掘調査、平成13・14年度に公有地化、平成15～17年度に整備事業を実施した。本書には整備事業を中心に、平成10年の古墳発見からの経過もあわせて収録した。
- 3 整備事業のうち史跡部分については、文化庁の国宝重要文化財等保存整備事業の採択を受け、国庫補助金及び県費補助金の交付を受けて実施した。
- 4 整備事業にあたっては、文化庁文化財部記念物課、富山県教育委員会文化財課、富山県埋蔵文化財センターの指導を受け、史跡柳田布尾山古墳整備検討委員会において内容の検討を行った。
- 5 事務局は水見市教育委員会生涯学習課が担当した。担当者は以下のとおりである。

平成15年度：課長池田晃、主査尾矢英一、主査大野究

平成16年度：課長池田晃、主査尾矢英一、主査大野究

平成17年度：課長東海慎一、課長補佐上田和弘、主査大野究

- 6 本書の編集・執筆は大野が担当した。
- 7 本書の写真は、水見市教育委員会が撮影したものを掲載したが、空中写真については、㈱エイ・テック撮影のものを、工事写真の一部は、各施工者撮影のものを使用した。
- 8 発掘調査の成果については、すでに以下の2冊の報告書を刊行している。

水見市教育委員会 2000 『柳田布尾山古墳』第1次・第2次発掘調査の成果

水見市埋蔵文化財調査報告第29冊

※平成11年度「とやま ときめき 歴史フォーラム」の記録も収録

水見市教育委員会 2001 『柳田布尾山古墳』第3次調査の成果

水見市埋蔵文化財調査報告第33冊

- 9 古墳の発見から整備の完了に至るまで、本文中に記した柳田布尾山古墳保存等検討委員会及び史跡柳田布尾山古墳整備検討委員会をはじめとする関係者の皆様、文化庁文化財部記念物課、富山県教育委員会文化財課、富山県埋蔵文化財センターから数々のご指導を得た。

さらに、以下の個人・機関等から数々のご指導・ご協力をいただいた。

ここに記して厚く感謝申し上げます（五十音順・敬称略）。

安念幹倫・池田恵子・石野博信・伊藤雅文・上野章・大塚初重・岡田康博・岡本淳一郎・河西健二・唐川明史・河村好光・久々忠義・黒崎直・近藤義郎・斉藤隆・酒井英男・坂井秀弥・境洋子・下條信行・関清・高橋浩二・林寺厳州（故人）・広瀬和雄・松島吉信・丸山竜平・淡農（故人）・宮田進一・山口辰一・山本正敏

特別養護老人ホームすわ苑、富山考古学会、富山大学人文学部考古学研究室、富山大学理学部地球科学研究室、水見市シルバー人材センター、水見市文化財審議会、柳村尾地研、柳田地区

目 次

| | |
|----------------------|----|
| 第1章 遺跡の位置と環境 | 1 |
| (1) 地理的環境 | 1 |
| (2) 歴史的環境 | 1 |
| 第2章 遺跡の発見と広報普及活動 | 4 |
| (1) 遺跡発見の経緯 | 4 |
| (2) 広報普及活動の記録 | 6 |
| 第3章 発掘調査 | 8 |
| (1) 保存等検討委員会の記録 | 8 |
| (2) 発掘調査の概要 | 10 |
| (3) 柳田布尾山古墳の築造時期について | 10 |
| 第4章 史跡指定 | 15 |
| 第5章 整備検討委員会の記録 | 16 |
| 第6章 整備事業 | 18 |
| (1) 公有地化 | 18 |
| (2) 整備計画の概要 | 19 |
| (3) 整備事業の概要 | 26 |
| (4) 管理・利用計画 | 37 |

図版目次

- 巻首図版一 1 柳田布尾山古墳と富山湾
2 柳田布尾山古墳と二上山
- 巻首図版二 1 後方部埋葬施設の土層
2 後方部埋葬施設粘土柳残欠
- 巻首図版三 1 前方部周濠の様子
2 前方部周濠の土層
- 巻首図版四 1 前方部東隅陸橋の様子
2 前方部東隅の様子
- 第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡 3
第2図 富山考古学会作成の平面図 5
第3図 柳田布尾山古墳調査区配置図 1 2
第4図 O Eトレンチ断面図(埋葬施設) 1 3
第5図 柳田布尾山古墳平面図 1 4
第6図 柳田布尾山古墳史跡指定範囲 1 5
第7図 公有地化の範囲 1 8
第8図 周辺状況図 1 9
第9図 基本レイアウト図 2 0
第10図 史跡柳田布尾山古墳整備計画図 2 1
第11図 史跡部分の整備計画 2 3
第12図 周辺部分の整備計画 2 5
第13図 史跡境界標 2 8
第14図 整備工事平面図 2 9
第15図 植栽計画図 3 0
第16図 古墳模型 3 1
第17図 墳丘部階段構造図 3 2
第18図 粘土柳表示施設 3 3
第19図 地形模型 3 4
第20図 古墳館 3 5
第21図 トイレ 3 6
- 図版一 整備の状況(一)
1 公園正面入口
2 駐車場からの登り道
3 史跡内植栽の様子
- 図版二 整備の状況(二)
1 史跡標柱
2 古墳模型
3 古墳模型と墳丘
- 図版三 整備の状況(三)
1 墳丘東側面
2 墳丘西側面
3 2号墳全景
- 図版四 整備の状況(四)
1 史跡解説板
2 陸橋部解説板
3 2号墳解説板
- 図版五 整備の状況(五)
1 前方部の状況
2 後方部の状況
3 埋葬施設の表示
- 図版六 整備の状況(六)
1 古墳館全景
2 古墳周辺地形想定模型
3 史跡境界標
- 図版七 整備の状況(七)
1 東屋
2 駐車場
3 トイレ
- 図版八 広報・普及活動
1 平成12年度柳田布尾山古墳現地博物館会場
2 平成12年度柳田布尾山古墳現地博物館会場
古墳展望用足場
3 平成12年度「王者の装い展」会場
4 平成12年度とやまの古墳教養講座
5 平成12年度とやまの古墳教養講座
6 平成12年度とやまの古墳教養講座
7 平成13年度シンポジウムの様子
8 平成13年度シンポジウム
- 図版九 盗掘坑埋め戻し作業
1 仮置土のう袋除去
2 盗掘坑土の掘削、引き上げ作業
3 盗掘坑のふるい掛け、埋め戻し作業
- 図版十 史跡部工事概要(一)
1 墳丘部伐採作業
2 伐採樹木搬出用切断作業
3 伐採後の状況
4 再利用チップ加工作業
5 再利用チップ敷均作業
6 保護盛土部清掃作業
7 保護用土砂搬入作業
8 保護用盛土敷均作業
- 図版十一 史跡部工事概要(二)
1 コグマザサ吹付け作業
2 コグマザサ吹付け厚確認作業
3 コグマザサ植生ネット張作業
4 コグマザサ植付作業
5 コグマザサ植栽数確認作業
6 コグマザサ散水養生作業
7 階段設置工事
8 階段設置状況
- 図版十二 史跡部工事概要(三)
1 台風で倒れた史跡内の樹木
2 史跡部植栽作業
3 周濠緑石設置作業
4 周濠敷砂利作業
5 粘土柳表示施設設置作業
6 古墳模型原型製作作業
7 古墳模型鋳型製作作業
8 古墳模型表面研磨仕上げ作業

第1章 遺跡の位置と環境

(1) 地理的環境

水見市は、富山県の西北部に位置し、地理的には能登半島の付け根東側にあたる。

昭和27年の市制施行から昭和29年までに、旧太田村を除く氷見郡1町17村が合併し、現在の氷見市が成立した。面積は約230㎢、人口は約5万6千人である。

市域は、南・西・北の三方が標高200～500mの丘陵に取り囲まれ、東側は約20kmの海岸線をもって富山湾に面している。丘陵は新第三紀と第四紀層から成り、山間部では地滑りが多く発生する。

市北半部は、上庄川・余川川・阿尾川・宇波川・下田川といった小河川とその支流から成る谷地形であり、上庄川流域以外は、まとまった平野が少ない。

市南半部は、主として布勢水海（十二町潟）が堆積してできた平野と、その砂嘴として発達した砂丘から成る。

市街地は、海岸線のほぼ中央に位置し、近年は北と南に広がりがつある。鉄道は氷見駅と高岡駅を結ぶJR氷見線が通り、主要道路では高岡市と石川県七尾市を結ぶ一般国道160号と、富山市と石川県羽咋市を結ぶ一般国道415号が通っている。

代表的な産業は、稲作を中心とした農業と、ブリ定置網に代表される漁業であるが、近年は第二・第三次産業に従事する人が増え、高岡市など市街へ通勤する人も多い。

また、能登半島口部の観光地として、市内には旅館・民宿が建ち並び、温泉も各地で噴出している。

古墳の所在する丘陵は、市城南の二上山丘陵から北に向かって派生する支丘にあたり、古墳の標高は約25m、平野との比高は約18mである。

この丘陵は、第四紀更新世後期の中位段丘で、窪層と呼ばれるものにあたる。窪層は氷見南東部に広がる高さ25～40mの海成段丘群であり、約12万年前の海進（下末古海進）によって形成された。それ以前の十二町層や西田層を不整合に覆ってほぼ水平に堆積し、最も厚いところで約25m程度である。地質は未固結の砂層であり、下部は主として細砂、上部は中粒砂から成り、いずれも粒のそろった良質の砂である。従って古墳築造以前の丘陵上部の自然地形は、ほぼ水平な段丘面であったと考えられる。

縄文時代の海進時は、丘陵近くまで海水が寄せていたと考えられる。その後の海退によって徐々に陸化が進んだと考えられるが、古墳近くには布勢水海の入江が大きく入り込んでいたと推定される。

(2) 歴史的環境

氷見市では江戸時代から阿尾城・森寺城・飯久保城・池田城・荒山城が古城跡として周知され、町役人田中屋権右衛門の日記『応響雜記』には、工事で人骨や土器・刀・古銭の出土した記事が散見される。

明治に入っても古墳や横穴の発見があったが、広く人びとに周知されるのは大正7年（1918）の大境洞窟住居跡と朝日貝塚の発見である。

大境洞窟住居跡は日本で初めて発掘調査された洞窟遺跡として、朝日貝塚は日本海側有数の貝塚として、大正11年（1922）国指定史跡となり、氷見地域が歴史の宝庫であることを広く人びとに印象づけることになった。

柳田布尾山古墳の発見は、地域としては巨大な古墳の出現に大きな驚きがあったものの、豊かな歴史的環境を裏付ける文化財の一例として、市民に受け入れられたと思われる。

以下、古墳周辺の遺跡について、時代ごとに概説する。

縄文時代：古墳と同じ丘陵の南約900mに、四十塚遺跡がある。縄文時代中期中葉から晩期初頭の遺物が出土し、主体は後期中葉から後葉までである。古墳北西部の柳田布尾山遺跡でも、縄文時代の遺物が採集されているが、分布は希薄である。また、富山湾に面した砂丘上でも若干縄文時代の遺物が採集されている。この地域には縄文中期から人が入り、後期には四十塚遺跡を中心に周辺の丘陵や砂丘部に進出したが、晩期初め頃に衰退したものと思われる。

弥生時代：まず、砂丘部の様相に目を向けると、柳田遺跡は小規模な発掘調査が行われたのみであり、範囲や遺構については詳細不明であるが、弥生時代後期、法仏Ⅰ式を主体とする遺物が出土している。分布調査では柳田南遺跡・柳田茂木遺跡・島尾北遺跡でも弥生時代後期から古墳時代前期と推定する遺物が採集されているが、細かい時期の確定はできておらず、弥生終末期の様相は不明である。

一方、柳田布尾山古墳の調査では、弥生時代後期から終末期にかけての遺物が出土し、古墳築造以前から丘陵に人の手が加わっていたことが明らかになった。柳田遺跡のあと、月影式期に集落が丘陵上に移転した可能性がある。

古墳時代：柳田布尾山古墳と同時期とみられる集落は、今のところ確認されていない。四十塚遺跡の発掘調査では、B地区で古墳時代住居跡と推定される隅丸方形の遺構が確認されているが、未報告のため概要は不明である。また、この遺跡はその名が示すとおり、複数の塚が所在したという伝承があるが、これも詳細は不明である。上田子古墳は、一辺約10mの方墳と推定される。なお、柳田布尾山古墳の所在する丘陵の北端裾には、6世紀前葉の須恵器窯である園カンデ窯跡が確認されている。これは今のところ県内最古の須恵器窯である。

古代：柳田遺跡・四十塚遺跡で奈良・平安時代の遺物が出土し、柳田布尾山古墳でも後方部南側で平安時代の遺構が確認されたが、詳細は不明である。

また、園カンデ窯跡周辺・柳田沖宮遺跡・園長堤遺跡で鉄滓が採集されているが、このうち柳田沖宮遺跡の資料を分析したところ、古代の鉄滓に近い数値が確認された。

中世：小竹遺跡は、現在高岡市西田に所在する臨濟宗国泰寺派総本山国泰寺の旧地とされる摩頂山を中心とした遺跡である。国泰寺は慈雲妙意が嘉暦3年(1328)に開いたと伝えられ、戦国末期の兵火で焼失し、現在地へ移ったという。なお、摩頂山には中世山城の遺構も確認されており、その一角では389枚の銅銭が発見されている。また、現在米見市朝日本町に所在する浄土真宗光熙寺はもと田子にあったといひ、多胡城はその遺構と伝えられる。

第1図 凡例

| | | |
|------------------|-------------------|---------------------|
| 1 柳田布尾山古墳(弥生・古墳) | 15 柳田沖宮遺跡(古代か) | 29 掘田竹端遺跡(古代・中世) |
| 2 窟北遺跡(古代・中世) | 16 柳田布尾山遺跡(縄文) | 30 掘田ニキ塚山古墳群(古墳) |
| 3 十二町高排水機場遺跡(縄文) | 17 上泉西遺跡(古代) | 31 掘田久前遺跡(古代) |
| 4 松田江北遺跡(古代・中世) | 18 大浦遺跡(弥生) | 32 掘田ナンマイダ松古墳群(古墳) |
| 5 窪シムラ遺跡(縄文・中世) | 19 大浦B遺跡(時期不明) | 33 掘田東谷内遺跡(時期不明) |
| 6 柳田遺跡(弥生) | 20 馬乗山遺跡(古墳) | 34 掘田ガス山遺跡(時期不明) |
| 7 柳田茂木遺跡(弥生・中世) | 21 掘田サカイ遺跡(弥生・近世) | 35 掘田龍ノ山塚(古墳) |
| 8 柳田南遺跡(弥生・古代) | 22 大浦深楽遺跡(古代) | 36 掘田ワタリウエ遺跡(古代・中世) |
| 9 島尾北遺跡(縄文・弥生) | 23 四十塚遺跡(縄文・古墳) | 37 掘田城跡(中世) |
| 10 島尾遺跡(中世・近世) | 24 多胡城跡(伝承地) | 38 藩田B遺跡(中世) |
| 11 上泉遺跡(古墳・中世) | 25 田子遺跡(古代) | 39 掘田長尾遺跡(中世) |
| 12 大浦三蔵遺跡(古墳) | 26 上田子遺跡(中世) | 40 藩田A遺跡(中世) |
| 13 園カンデ窯跡(古墳) | 27 上田子古墳群(古墳) | 41 小竹遺跡(中世) |
| 14 園長堤遺跡(古代か) | 28 掘田モリノ田塚(中世) | |



第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡

第2章 遺跡の発見と広報普及活動

(1) 遺跡発見の経緯

柳田布尾山古墳は、平成10年6月24日に、西井龍儀氏が発見した古墳である。

平成4年に市制施行40周年を迎えた水見市では、その記念事業のひとつとして、水見市史編さん事業に着手し、平成6年には他の部会と共に水見市史編さん委員会考古部会が設けられた。西井氏はその副部長として主として古墳時代を担当され、市内の古墳踏査にあたり、その中での発見であった。

その日、西井氏から連絡を受けた市教育委員会生涯学習課では、ただちに現地の状況を確認し、略測によって全長100mを超える前方後方墳であることを確認した。

6月28日と7月5日には西井氏を中心とした富山考古学会や富山大学考古学研究室の有志メンバーが古墳の平板測量を行い、全長107mであること、円墳とみられる2号墳のあることなどが確認された。

その後市教委では、県教委文化課と県埋蔵文化財センターと共に対応を協議し、7月9日、富山県庁において、県教委と市教委合同で記者発表を行った。また午後には報道関係者に現地を公開した。

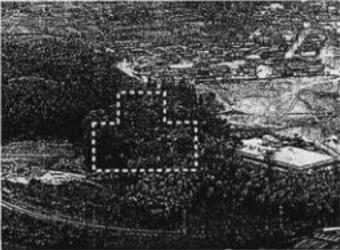
水見市史編さん委員会 1998年(平成10年)7月10日 金曜日

日本海握る大首長埋葬か

氷見・柳田布尾山古墳 4世紀前半と推定

一級の保存検討委設置へ

考古資料



富山県水見市柳田布尾山に、全長107メートルの前方後方墳が発見された。この古墳は、4世紀前半に築かれたと推定され、日本海を握る大首長の埋葬地と見られる。発見されたのは、平成10年6月24日、西井龍儀氏による踏査の際である。この古墳は、全長107メートルあり、前方後方墳の形を呈している。また、円墳とみられる2号墳も存在する。この発見は、水見市の歴史を語る上で重要な発見と見られる。現在、この古墳の保存と調査が検討されている。



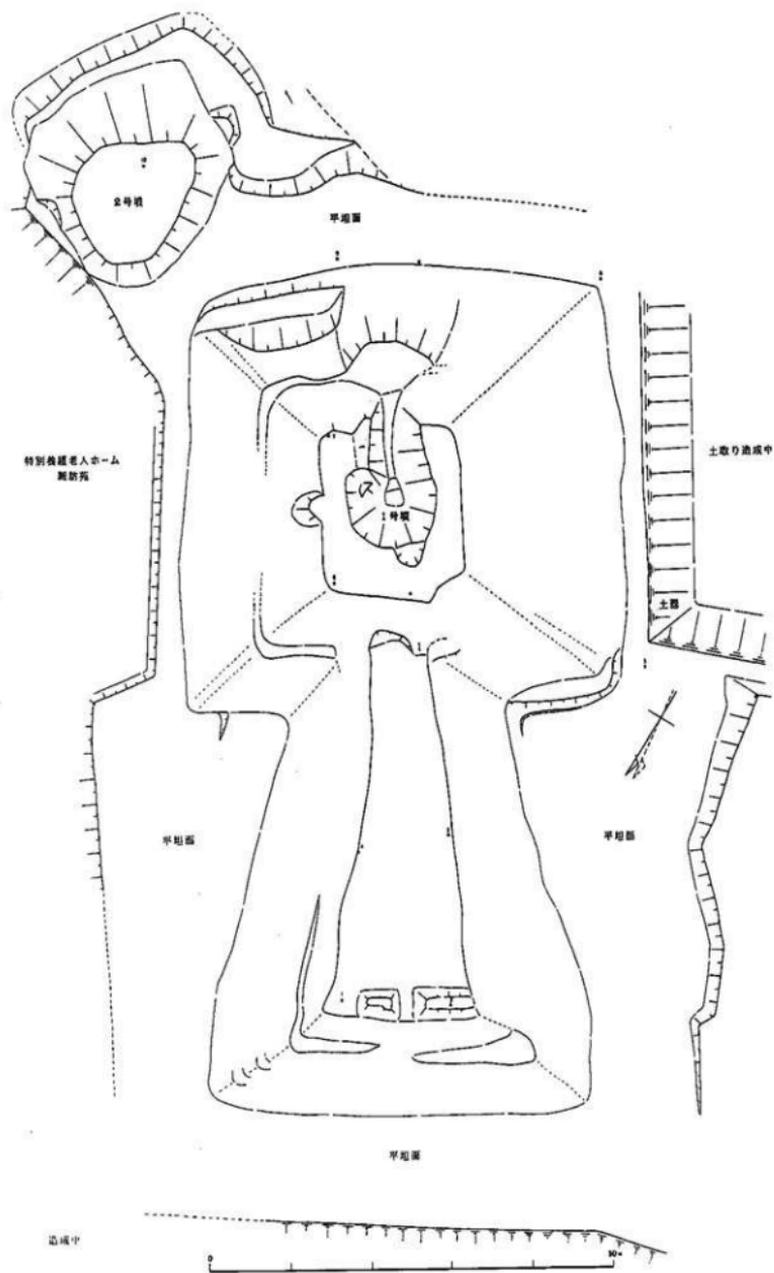
柳田布尾山古墳の図

全長 107m
前方 50m
後方 31m

富山県水見市柳田布尾山に、全長107メートルの前方後方墳が発見された。この古墳は、4世紀前半に築かれたと推定され、日本海を握る大首長の埋葬地と見られる。発見されたのは、平成10年6月24日、西井龍儀氏による踏査の際である。この古墳は、全長107メートルあり、前方後方墳の形を呈している。また、円墳とみられる2号墳も存在する。この発見は、水見市の歴史を語る上で重要な発見と見られる。現在、この古墳の保存と調査が検討されている。

富山県水見市柳田布尾山に、全長107メートルの前方後方墳が発見された。この古墳は、4世紀前半に築かれたと推定され、日本海を握る大首長の埋葬地と見られる。発見されたのは、平成10年6月24日、西井龍儀氏による踏査の際である。この古墳は、全長107メートルあり、前方後方墳の形を呈している。また、円墳とみられる2号墳も存在する。この発見は、水見市の歴史を語る上で重要な発見と見られる。現在、この古墳の保存と調査が検討されている。

発見を伝える新聞記事



第2図 富山考古学会作成の平面図 (1/600)

(2) 広報普及活動の記録(肩書等は当時・敬称略)

◎現地説明会

平成11年3月27・28日、柳田布尾山古墳

主催：氷見市教育委員会、協力：富山県教育委員会・富山県埋蔵文化財センター

参加者：約2100人

◎現地説明会

平成11年11月21日、柳田布尾山古墳

主催：氷見市教育委員会

参加者：約550人

◎とやま ときめき 歴史フォーラム「柳田布尾山古墳 そのロマンと不思議」

平成11年11月21日、氷見市民会館

主催：富山県教育委員会・氷見市・氷見市教育委員会・北日本新聞社

後援：NHK富山放送局

第1部「トーク」

古墳時代のくらしとロマン いつ解き明かされる、越の王者の存在

大橋美代子(タレント)

和田晴吾(立命館大学教授)

司会・斉藤寿朗(NHK富山放送局アナウンサー)

第2部「パネルディスカッション」

柳田布尾山古墳の意味するもの 国内研究者からの「視点」

コーディネーター 宇野隆夫(国際日本文化研究センター教授)

パネリスト 和田晴吾(立命館大学教授)

吉村公男(河合町教育委員会)

中屋克彦(石川県教育委員会)

大野 究(氷見市教育委員会)

参加者：約1000人

◎柳田布尾山古墳を「見る・知る・考える」事業

主催：氷見市・氷見市教育委員会

共催：富山県・富山県教育委員会

後援：北日本新聞社・富山新聞社・北陸中日新聞・読売新聞社・朝日新聞社・毎日新聞社・NHK富山放送局・北日本放送・富山テレビ放送・チューリップテレビ・ケーブルネット氷見

○「王者の装い展」柳田布尾山古墳とコシのクニ

平成12年8月11日から9月10日まで

メイン会場：氷見市ふれあいスポーツセンター

サブ会場：氷見市立博物館

入場者：約3600人

○「柳田布尾山古墳現地博物館」

平成12年7月25日から9月24日まで

見学者：約2900人

○とやまの古墳教養講座（全3回）

会場：水見市ふれあいスポーツセンター会議室など

平成12年9月3日 講師：岸本雅敏（富山県埋蔵文化財センター所長）

平成12年9月10日 講師：西井龍儀（富山考古学会副会長）

平成12年9月17日 現地学習「史跡の整備と活用」

参加者：各回40人

◎柳田布尾山古墳史跡指定記念シンポジウム「ひらこう —古墳の扉と地域の扉—」

平成13年6月24日、水見市民会館

主催：水見市・水見市教育委員会・北日本放送

共催：富山県教育委員会

後援：北日本新聞社・富山新聞社・北陸中日新聞・読売新聞社・毎日新聞社・朝日新聞社

総司会：金田亜由美（北日本放送）

柳田布尾山古墳調査報告

第1部「開こう —古墳の扉—」

記念対談「古墳が語る古代の北陸」

大塚初重（明治大学名誉教授）

里中満智子（漫画家）

第2部「拓こう —地域の扉—」

シンポジウム「史跡があたえてくれるもの—その魅力と可能性—」

コーディネーター 小島俊彰（金沢美術工芸大学教授）

パネリスト 小西秀典（仙北町教育委員会）

佐藤晃一（加悦町企画観光課）

高田秀樹（能都町教育委員会）

大野 究（水見市教育委員会）

参加者：約900人

第3章 発掘調査

(1) 保存等検討委員会の記録

柳田布尾山古墳が発見されたとき、古墳北側では宅地造成による土砂採取が行われ、西側でも土砂採取が進行していた。特に西側の土砂採取は墳丘後方部のすぐ横にまで迫っており、周濠の一部が破壊され法面に断面が露出する状態であった。

また、墳丘部分も将来の宅地造成計画地に含まれており、前方部の一部はすでに不動産業者が取得している状況であった。

このため水見市では、この古墳が貴重な文化財であるとの認識のもと、文化庁・県教委文化課・県埋蔵文化財センターの指導・助言を得て、平成10～12年度に柳田布尾山古墳保存等検討委員会を組織し、その検討を受けて、現状保存を図るとともに、今後の整備・活用に向けての基礎データを得るための発掘調査を実施した。

柳田布尾山古墳保存等検討委員会委員名簿

委員 (◎：委員長、○：副委員長)

| | |
|--------|---------------------------|
| 都出比呂志 | 大阪大学教授 |
| 和田 晴吾 | 立命館大学教授 |
| ○宇野 隆夫 | 富山大学教授、のち国際日本文化研究センター教授 |
| ◎小島 俊彰 | 金沢美術工芸大学教授・富山県文化財保護審議会委員 |
| 西井 龍儀 | 富山考古学会幹事、のち同会副会長 |
| 棚瀬 佳明 | 富山県教育委員会文化課長 (平成10年度) |
| 林 清文 | 富山県教育委員会文化財課長 (平成11・12年度) |
| 岸本 雅敏 | 富山県埋蔵文化財センター所長 |
| 江幡 武 | 水見市教育委員会教育長 |

協力委員

| | |
|-------|---------------------------------|
| 岸本 直文 | 文化庁文化財保護部記念物課文化財調査官 (平成10・11年度) |
| 臼杵 勲 | 文化庁文化財保護部記念物課文化財調査官 (平成12年度) |

事務局

水見市教育委員会生涯学習課

柳田布尾山古墳保存等検討委員会設置要項

(設置目的)

第1条 柳田布尾山古墳に関する調査研究及び保存活用を検討するため、柳田布尾山古墳保存等検討委員会 (以下、「委員会」という。)を設置する。

(組織)

第2条 委員は、文化財に関し専門的知識、学識経験等を有する者及び関係行政機関の者のうちから水見市長が委嘱する。

(所掌事務)

第3条 委員会は、第1条の設置目的を達成するために具体的な検討を行う。

(委員長及び副委員長)

第4条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

2 委員長及び副委員長は、委員の互選とする。

3 委員長は委員会の会務を総理し、委員会を代表する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(委員の任期)

第5条 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

(会議)

第6条 委員会の会議は、委員長が召集し、委員長がその議長となる。

(事務処理)

第7条 委員会の事務は、氷見市教育委員会事務局生涯学習課において行う。

(雑則)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関して必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

1 この要綱は、平成10年10月23日から施行する。

2 この委員会の設立当初の委員の任期は、第4条の規定にかかわらず、平成12年3月31日までとする。

委員会の経過

平成10年10月23日 委員委嘱、委員長及び副委員長の選出
経過報告、古墳の調査方法等について

平成11年3月18日 試掘調査の状況について

平成11年3月25日 試掘調査の状況について、今後の調査予定について

平成11年7月8日 現地視察、試掘調査の経過報告

平成12年2月23日 調査報告書について、今後の予定について

平成12年8月23日 試掘調査結果の予定について

平成12年12月1日 現地視察、試掘調査の結果について、今後の予定について

平成13年3月21日 試掘調査結果のまとめ

(2) 発掘調査の概要

発掘調査は、柳田布尾山古墳保存等検討委員会の指導のもと、氷見市教育委員会が主体となり、平成10～12年度に実施した。

平成10年度の発掘調査は、12月15日～3月31日まで実施し、調査面積は70㎡である。古墳主軸に沿って前方部裾にNトレンチ、後方部裾にSトレンチを設定し、古墳の全長の確認、周濠の確認を行った。

平成11年度の発掘調査は、5月28日～9月24日まで実施し、調査面積は300㎡である。前年度に引き続き、古墳の大きさや周濠について確認するため、SWトレンチ、SEトレンチ、Eトレンチ、E2トレンチ、E3トレンチ、NEトレンチ、NWトレンチ、Wトレンチを設定した。また、古墳西側の平坦面に南北トレンチと東西トレンチを設定し、遺構・遺物の有無を確認した。また、後方部の盗掘坑に埋葬施設や盛土の状況を確認するためにトレンチを設定した。

平成12年度の発掘調査は、8月28日～12月13日まで実施し、調査面積は47㎡である。前年度に引き続き、古墳の大きさや周濠について確認するため、E4トレンチ、E5トレンチ、E6トレンチ、N2トレンチを設定した。また、2号墳の周濠を確認するため、S2トレンチ、S3トレンチを設定した。さらに、前年度設定した後方部盗掘坑のトレンチのうち、粘土層の一部が確認されたOEトレンチを精査した。最後に、段築の様子を探るため、前方部にZ1トレンチ、Z2トレンチ、Z3トレンチを、後方部にK1トレンチ、K2トレンチ、K3トレンチを設定した。

また、周濠全体の幅・深さと、埋葬施設の遺存状況や盛土の状況を探るため、墳丘頂部と周濠全体及び2号墳頂部についてレーダ探査と高密度電気探査を行った。この調査にあたっては富山大学理学部地球科学科（代表酒井英男助教授）の協力を得た。

発掘調査は全て人力により行い、盗掘坑排出土の掘削においては、全てふるいを通した。また、各トレンチは調査終了後、底面に小砂利を厚さ2cm前後に敷き詰め、掘削土によって埋め戻した。

柳田布尾山古墳は、標高約25mの丘陵端部に立地し、平野との比高は約18m、海岸からの距離は約2kmである。前方部を北北西に向けた墳丘は側面を富山湾に向け、主軸ラインは約2km南東の二上山丘陵を指している。

墳丘規模は、全長107.5m、後方部長54m、後方幅53m、後方高10m、前方部長53.5m、前方幅49m、前方高6mである。

前方部裾に幅5～18m、深さ1.2～2.3mの不定型な周濠がめぐり、東側コーナーに陸橋がある。陸橋の幅は約2.5m、長さは約5mと推定される。

また、古墳には埴輪・葺石がなく、テラスの幅が狭い段築によって、全体が二段になっていた。

埋葬施設は、盗掘によって大半が失われているが、後方部中央やや東寄りに、主軸とほぼ平行する粘土層があったと考えられる。石室の構築はない。さらに土層の観察により、墳丘の築造と内部施設の構築及び遺体の埋葬が、一連のものとして行われたことがうかがえる。なお、レーダ探査及び高密度電気探査の結果、前方部では埋葬施設とみられる反応がなかった。

墳丘は地山を前方後方形に削り出し、その上に盛土をして築造されている。盛土の厚さは、前方部で約4m、後方部で約7mに達し、盛土総体積は約14000㎡である。これは古墳総体積約23000㎡の約60%にあたる。

2号墳は直径25mの円墳であり、幅約5m、深さ約1.6mの周濠がめぐる。

(3) 柳田布尾山古墳の築造時期について

発掘調査により、周濠内・盛土内・旧表土内から土器破片が多数出土しているが、ほとんどは弥生時代後期～終末期のものであり、わずかに古墳時代前期古府クルビ式期のものが含まれる。これらの遺物

は古墳そのものに伴うものではなく、築造以前の状況を示すものと考えられ、おそらく丘陵上に集落があったと考えられる。

これ以外では、縄文時代晩期、弥生時代中期、古墳時代後期、奈良時代、室町時代の遺物が若干出土している。なお、後方部裾で碧玉製管玉を1点表採しているが、古墳との関連は不明である。

このように古墳と直接結びつく遺物がないため、築造時期を確定することは困難である。三カ年の発掘調査をまとめた段階では（水見市教委2001）、立地や不定型な周濠と陸橋の存在、平面企画において国分尼塚1号墳（石川県七尾市）と共通する部分があること、勅使塚古墳（富山市）に後続する王塚古墳（富山市）と前方部の形態が類似すること、二段築成の雨の宮1号墳（石川県中能登町）と比較して柳田布尾山古墳は段築が未発達なことから、勅使塚古墳・国分尼塚1号墳と雨の宮1号墳の間に位置づけた。さらにこの中では平面企画の類似性⁹⁾を重要と考え、国分尼塚1号墳の直後ではないかと推定した。

ただ、その後雨の宮古墳群の報告書が刊行され（鹿西町教委2005）、国分尼塚1号墳と雨の宮1号墳の間をこれまでの理解より長くとらえた方が良くと考え直したため、前回使用した直後という表現は齟齬を来すように思う。ここでは勅使塚古墳・国分尼塚1号墳と雨の宮1号墳の間で、前者に近い時期と訂正し、古墳時代前期前半終わり頃の築造と推定しておきたい。

なお、雨の宮古墳群の報告書において雨の宮1号墳の土器祭式を検討された谷内尾晋司氏は、二重口緑壺の顕著な出土を見ない古墳について、二重口緑壺主体の土器祭式終焉から、埴輪祭式の導入までの間に造営された古墳の可能性が高いことをあげ、柳田布尾山古墳の年代が前期の中で新しくなる可能性を示唆された。ただ、能登と越中では埴輪の受容に対して大きな時間差があり、また阿尾島田A1号墳のように丹念な調査でも土器破片が全く出土しない例¹⁰⁾もあるため、柳田布尾山古墳を新しく位置づけるには、なお検討が必要であろう。

一方2号墳の築造時期も不明であるが、柳田布尾山古墳の後方部の形態が2号墳の墳丘と周濠の影響を受けているとの見方があり、2号墳が先行する可能性がある。

水見地域の古墳分布をみた場合、最も多く古墳が築かれたのは上庄川流域であり、また地域の首長墳とみられる古墳は、主として加納瀧（仮称）周辺と朝日山丘陵に築かれ、柳田布尾山古墳周辺にはその後ほとんど古墳が築かれなかった（水見市教委2008）。このことから柳田布尾山古墳は、越中・能登で隔絶した規模を持つこととあわせて、水見地域だけの首長系列では語るることができないと考える。その被葬者は、周辺部の複数の地域の首長が、臨時的もしくは短期的に連合したことにより、より上位の首長として登場したのではないだろうか。

古墳が築かれた場所は、真下に布勢水海¹¹⁾の入り江があり、遠く富山湾を望む丘陵の上である。また、越中の広い範囲から見通すことのできる二上山丘陵を意識した立地でもある。その被葬者は、古墳時代前期前半に富山湾を中心とした海上交通を掌握した人物であったと考えられよう。

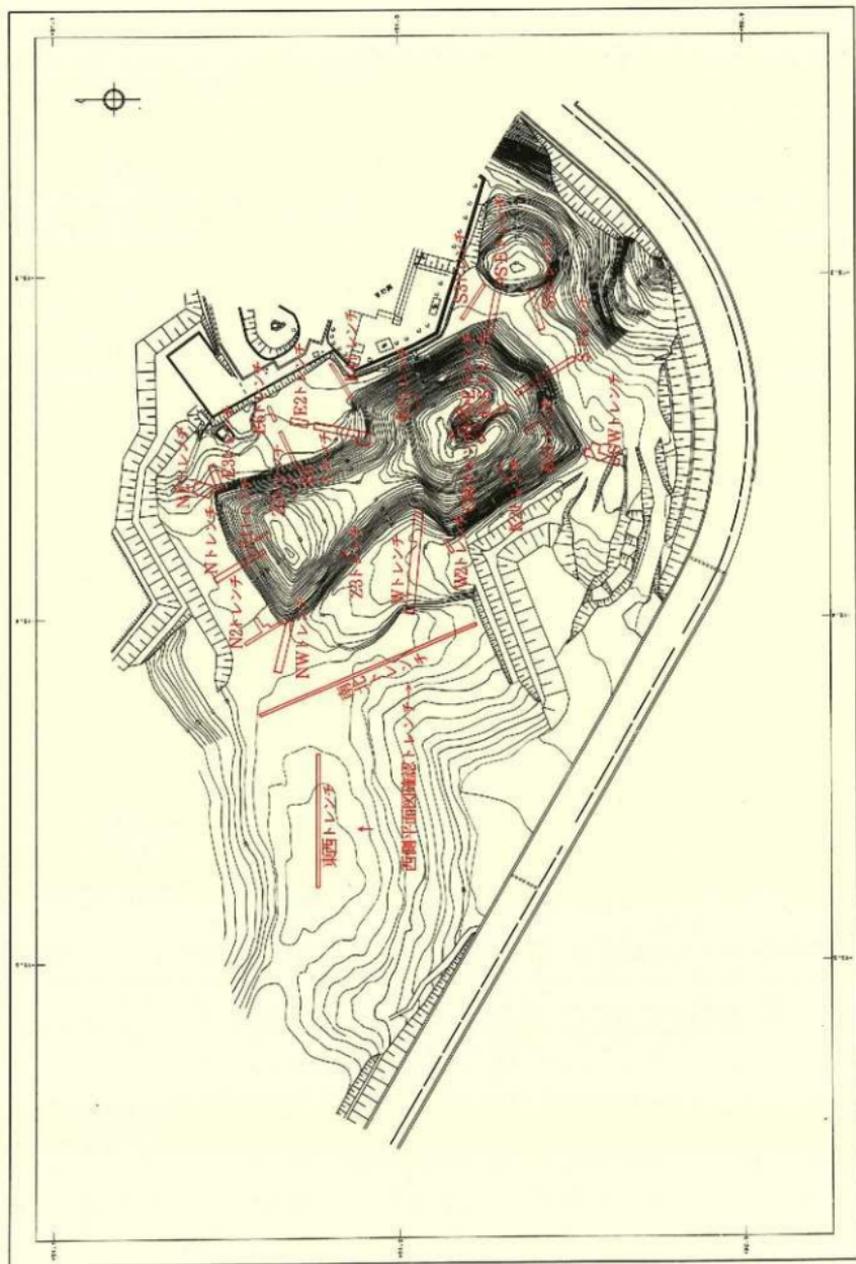
- 1) 改めて述べておくと、両者は2:1の平面形に類似する点が多く、共通する企画があった可能性が高いと考えるが、いわゆる相似墳という範疇でとらえているのではない。また立面形では国分尼塚1号墳は低平な墳丘を呈しており、柳田布尾山古墳とは大きく異なっている。
- 2) 富山大学考古学研究室の発表による。
- 3) 布勢水海（布勢湖）は、近世の干拓と開発の進展に対応して、布勢（施）湖（瀧）→水見（庄）瀧→十二町瀧と名称が変化した（楠瀬2004）。従って古墳時代の瀧に水見湖や十二町瀧の名称をあてるのはふさわしくない。

楠瀬勝 2004 「絵図にみられる十二町瀧への変遷」『水見市史』8 資料編六 絵図・地図

水見市教育委員会 2001 『柳田布尾山古墳』第3次調査の成果 水見市埋蔵文化財調査報告第33冊

水見市教育委員会 2003 『水見市埋蔵文化財分調査報告（丘陵地区Ⅲ）』 水見市埋蔵文化財調査報告第39冊

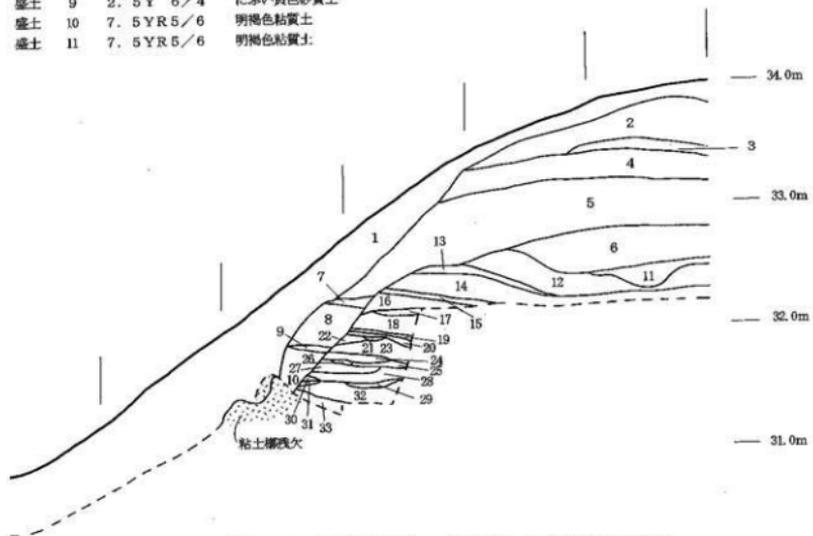
鹿西町教育委員会 2005 『史跡雨の宮古墳群』



第3図 柳田布尾山古墳調査区配置図 (S = 1/1,000)

OEトレンチ (北面・南から)

| | | | |
|----|----|------------|--------------------|
| 表土 | 1 | 7. 5YR 4/3 | 褐色砂質土 |
| 盛土 | 2 | 7. 5YR 3/3 | 暗褐色砂質土 1cm粒粘土微量混じり |
| 盛土 | 3 | 7. 5YR 4/6 | 褐色砂質土 |
| 盛土 | 4 | 7. 5YR 3/2 | 黒褐色砂質土 |
| 盛土 | 5 | 7. 5YR 5/6 | 明褐色砂質土 |
| 盛土 | 6 | 7. 5YR 5/8 | 明褐色粘質土 |
| 盛土 | 7 | 10 YR 4/6 | 褐色砂質土 1cm粒粘土微量混じり |
| 盛土 | 8 | 7. 5YR 5/4 | にぶい褐色砂質土 |
| 盛土 | 9 | 2. 5Y 6/4 | にぶい黄色砂質土 |
| 盛土 | 10 | 7. 5YR 5/6 | 明褐色粘質土 |
| 盛土 | 11 | 7. 5YR 5/6 | 明褐色粘質土 |



| | | | |
|----|----|------------|--------------------------|
| 盛土 | 12 | 7. 5YR 6/8 | 褐色粘質土 1~2cm粒粘土少量混じり |
| 盛土 | 13 | 5 Y 7/2 | 灰白色砂質土 1cm粒粘土多量混じり |
| 盛土 | 14 | 7. 5YR 4/6 | 褐色粘質土 1cm粒粘土微量混じり |
| 盛土 | 15 | 7. 5YR 4/4 | 褐色粘質土 |
| 盛土 | 16 | 7. 5YR 5/6 | 明褐色粘質土 1cm粒粘土微量混じり |
| 盛土 | 17 | 7. 5YR 5/4 | にぶい褐色粘質土 0.5~2cm粒粘土微量混じり |
| 盛土 | 18 | 7. 5YR 4/4 | 褐色粘質土 0.5~3cm粒粘土少量混じり |
| 盛土 | 19 | 5 Y 7/3 | 浅黄色砂質土 0.5cm粒粘土少量混じり |
| 盛土 | 20 | 7. 5YR 4/4 | 褐色粘質土 1cm粒粘土微量混じり |
| 盛土 | 22 | 7. 5YR 5/6 | 明褐色粘質土 0.5~2cm粒粘土微量混じり |
| 盛土 | 23 | 7. 5YR 4/6 | 褐色粘質土 1cm粒粘土少量混じり |
| 盛土 | 24 | 7. 5YR 5/6 | 明褐色粘質土 0.5~2cm粒粘土微量混じり |
| 盛土 | 25 | 7. 5YR 4/6 | 褐色粘質土 1cm粒粘土微量混じり |
| 盛土 | 26 | 5 Y 7/2 | 灰白色砂質土 |
| 盛土 | 27 | 10 YR 6/6 | 明黄褐色粘質土 2cm粒粘土微量混じり |
| 盛土 | 28 | 7. 5YR 4/4 | 褐色粘質土 0.5~2cm粒粘土少量混じり |
| 盛土 | 29 | 5 Y 7/3 | 浅黄色砂質土 |
| 盛土 | 30 | 2. 5Y 7/4 | 浅黄色砂質土 |
| 盛土 | 31 | 7. 5YR 4/4 | 褐色粘質土 |
| 盛土 | 32 | 5 Y 7/2 | 灰白色砂質土 1cm粒粘土多量混じり |
| 盛土 | 33 | 7. 5YR 5/6 | 明褐色粘質土 |

(粘土 10Y 7/1 灰白色粘質土)

第4図 OEトレンチ断面図 (埋葬施設) (S=1/40)



第5図 柳田布尾山古墳平面図

第4章 史跡指定

柳田布尾山古墳は、平成13年1月29日、以下のとおり史跡に指定された。

名称：柳田布尾山古墳

所在地：富山県水見市柳田字布尾山 26番2、28～31番、32番1～2、33番、34番、
35番1、36番1、37番2、37番4、37番6、
38番1、39番1、40番、44番、45番1

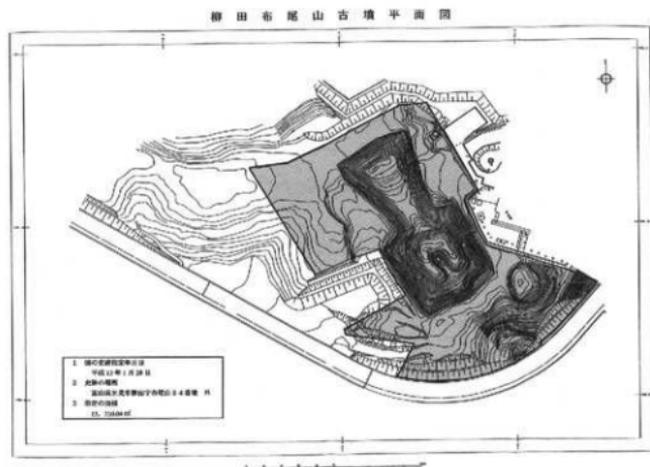
富山県水見市柳田字諏訪野 3878番2、3912番、3913番

対象面積：13,210.04平方メートル（登記面積）

指定理由：富山湾を望む地に築造された全長107.5mの大型前方後方墳。平成10年に発見されて注目された。前方後方墳としては日本海側最大で、全国でも十指にはいる。

周囲の前期古墳と比しても隔絶した規模を持ち、日本海の海上交通を押さえ周辺を掌握した首長の墓と考えられる。北陸の古墳時代の政治・社会を考える上で重要である。

（平成13年1月29日付け 文部科学省告示第8号）



第6図 柳田布尾山古墳史跡指定範囲

第5章 整備検討委員会の記録

史跡柳田布尾山古墳整備検討委員会委員名簿

委員 (◎：委員長、○：副委員長)

小野健吉 (独立行政法人文化財研究所 奈良文化財研究所主任研究官、平成16年3月まで)

◎小島俊彰 (金沢美術工芸大学教授)

宇野隆夫 (国際日本文化研究センター教授)

○西井龍儀 (富山考古学会副会長)

岸本雅敏 (富山県埋蔵文化財センター所長)

鏡 正子 (観光ボランティアグループ「つままの会」)

本川由子 (水見青年会議所)

茨木源二 (柳田地区総代)

オブザーバー

本中 眞 (文化庁文化財部記念物課主任文化財調査官、平成16年3月まで)

小野健吉 (文化庁文化財部記念物課主任文化財調査官、平成16年4月から)

伊藤清江 (富山県教育委員会文化財課長、平成15年6月まで)

舟崎邦雄 (富山県教育委員会文化財課長、平成15年7月から平成17年3月まで)

平野 博 (富山県教育委員会文化財課長、平成17年4月から)

事務局

水見市教育委員会生涯学習課

史跡柳田布尾山古墳整備検討委員会設置要綱

(設置目的)

第1条 柳田布尾山古墳に関する保存及び整備活用を検討するため、史跡柳田布尾山古墳整備検討委員会 (以下「委員会」という。)を設置する。

(組織)

第2条 委員は、文化財の保存及び整備活用に関し専門的知識、学識経験等を有する者及び関係行政機関の者のうちから市長が委嘱する。

(所掌事務)

第3条 委員会は、第1条の目的を達成するために具体的な検討を行う。

(委員長及び副委員長)

第4条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

2 委員長及び副委員長は、委員の互選とする。

3 委員長は委員会の会務を総理し、委員会を代表する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(委員の任期)

第5条 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

(会議)

第6条 委員会の会議は、委員長が招集し、委員長がその議長となる。

(事務処理)

第7条 委員会の事務は、水見市教育委員会事務局生涯学習課において行う。

(雑則)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関して必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

- 1 この要綱は、平成13年10月23日から施行する。
- 2 この委員会の設立当初の委員の任期は、第5条の規定にかかわらず、平成15年3月31日までとする。

委員会の記録

- 平成13年11月1日 委員委嘱、経過報告、今後の予定について
平成14年7月5日 整備範囲について、整備内容について
平成14年11月25日 整備計画について、今後の予定について
平成15年2月25日 整備計画について、今後の予定について
平成17年4月27日 古墳館（仮称）について、台風による被害とその対策について



委員会の様子

第6章 整備事業

(1) 公有地化

史跡の保存と活用のため、平成13年度及び14年度の2カ年で、国・県の補助金の交付を受け、下記のとおり用地を購入した。

公有地化の内訳

| 区分 | 公有化面積 | 取得費 | 国庫補助額 | 備 考 |
|-----|------------|-----------|-----------|----------------|
| 史跡部 | 14,806.92㎡ | 196,330千円 | 157,063千円 | 他に市有地 (14.91㎡) |
| 周辺部 | 17,267.32㎡ | 257,847千円 | | 他に市有地 (91.39㎡) |
| 合 計 | 32,074.24㎡ | 454,177千円 | 157,063千円 | |



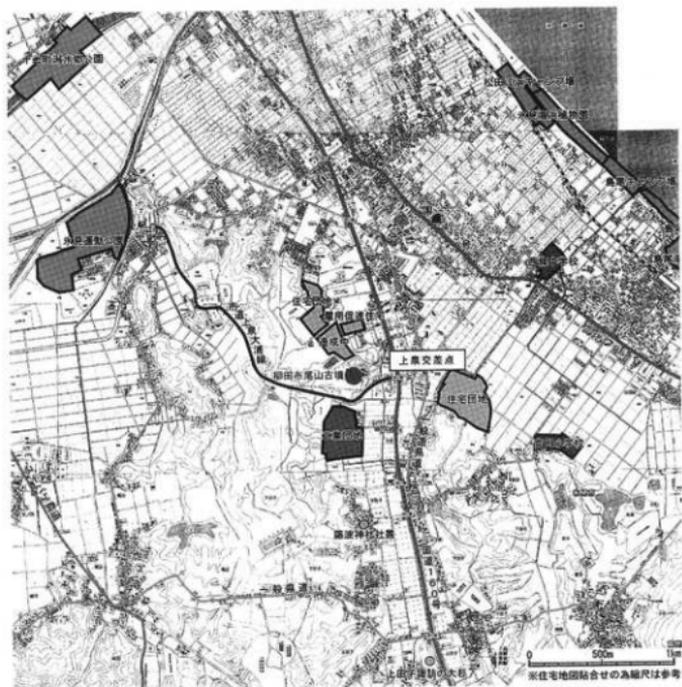
第7図 公有地化の範囲

(2) 整備計画の概要

史跡柳田布尾山古墳整備検討委員会での検討を受けて、平成14年度に柳田布尾山古墳整備基本計画を策定した。

a 周辺状況の整理

- ・対象地は、水見市街地南部の国道160号沿線に位置している。
- ・周辺の主要な施設として、水見運動公園（約2.0km）、水見市海浜植物園（約2.5km）、十二町潟水郷公園（約3.0km）がある。
- ・東側約1.5kmには宮田小学校、西條中学校が位置している。
- ・対象地北側に、既存住宅団地や雇用促進住宅、造成中の宅地在隣接している。
- ・対象地へのメインアクセス路は、国道160号上泉交差点から市道上泉大浦線となる。



第8図 周辺状況図

b 整備計画の内容

b-1 整備方針の整理

史跡部分

- ・立木等を生かすなど、現況の自然環境を極力保持する。
- ・墳丘形状等を復原し、築造当時の状況が想像できる工夫をする。

史跡部分については、史跡を保護するとともに、古墳の形や大きさ、築造当時の状況が判るような整備を行う。

周辺部分

- ・古代の歴史・文化を体感し、理解できる史跡公園とする。
- ・史跡を囲む快速ゾーンとする。
- ・観光資源としての位置づけも視野に入れる。

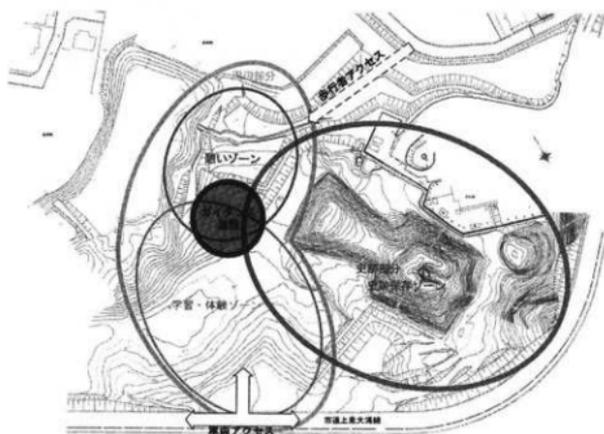
周辺部分については、古墳に付随する施設として、古墳自体や古代の歴史・文化を紹介、学習する機能を整備するほか、近隣住宅地の憩いの場としても位置づける。

b-2 基本レイアウト

対象地は史跡部分と周辺部分により形成されており、史跡部分は史跡自体を保存するゾーンとする。一方、周辺部分は古代の歴史文化を体感理解できる学習体験ゾーンと史跡を囲む快速空間としての憩いゾーンに区分した。憩いゾーンは、古墳北側に広がる住宅地側に配置することとし、学習体験ゾーンは古墳西側に広がる比較的緩やかな傾斜地に配置することとした。

さらに、各ゾーンが交わる箇所にそれぞれを結ぶ中核の施設として、古墳館を配置することとした。

なお、対象地へのアクセス路として考えられる道路として、南側の市道上泉大浦線及び北側の区画道路があるが、幅員等から車両によるアクセス路は市道上泉大浦線とし、区画道路側は、歩行者を対象としたアクセス路とした。



第9図 基本レイアウト図

b-3 史跡部分について

① 墳丘

発掘調査結果に基づき、盗掘坑より掻き出された土砂が堆積している箇所や削り取られている箇所の整形を行うとともに、盗掘坑は盗掘時に掻き出された土砂を利用して、埋め戻すものとする。

立木は墳丘の形状をわかりやすくするために、杉・竹を中心に伐採整理する。なお、伐採は地際で行い、除根は行わず、将来的に根が腐り陥没等が発生した場合に、埋め戻し等の対応を図ることとする。

また、墳丘表面の雨水等による浸食を防止するとともに、浸食しやすい墳丘法面や、隅部への来訪者の立ち入りを抑制することを目的として、古墳表面にササを植栽する。

一方、墳丘上面は盛土による表面保護を行い、来訪者が墳丘へ登れるよう、階段を3箇所設置する。階段の設置箇所は、古墳西側からの視点を重視し設定した。

なお、階段は墳丘形状を損なわないよう配慮するとともに、史跡本体の改変を極力小さくするために、木材等を梯子状に組み、上下の基礎で固定する構造とする。

② 周濠・陸橋

周濠は、その形状がわかるよう玉砂利敷きとする。また、周濠の形状を明確にし、玉砂利の飛散を防ぐ為に、縁には玉石を配置する。これらのことにより、陸橋が明確に表現される事になる。

なお、防草対策として、砂利敷きの下に防草シートを敷設することとする。

③ 粘土柳平面表示

埋葬施設について、発掘調査結果をもとに学術的な考察を行い、想定される粘土柳の位置、大きさや方向が判るよう、ブロックで表示を行う。

④ 古墳模型

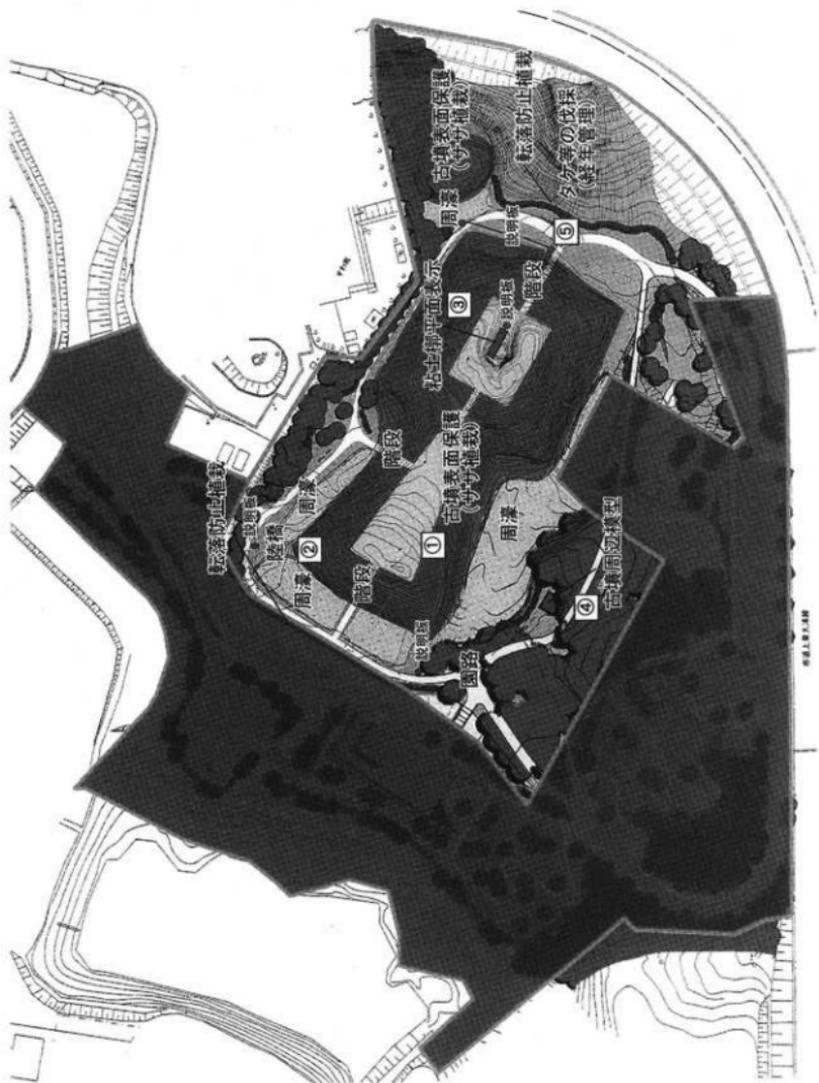
古墳西側に、古墳の立地状況がわかる古墳模型を設置する。なお、設置箇所からは墳丘本体及び周濠の様子を見渡せ、模型と実景との比較ができるようにする。

⑤ 園路・その他

墳丘を周回するように園路（幅2m）を配置し、適時据置型のベンチを配置するほか、北側及び南側の園路脇には、転落防止を目的とした低木植栽を行う。

周濠や陸橋等を簡単に説明する説明板を現地に設置する。なお、説明板は周辺の景観に配慮し、高さの低いものを設置する。

また、古墳南側斜面は、国道160号から墳丘が視認できるよう、竹等の植生を経年的に伐採管理する。



第11図 史跡部分の整備計画

b-4 周辺部分について

① 古墳館

古墳館は、墳丘北側に配置し、学習や休憩のためのスペースとなる1階、回廊状にパネル展示を施した2階、墳丘及び周辺を展望できる3階からなる。

② 疎林広場

現在、この傾斜地は樹林地となっていることから、適宜立木を残し、疎林広場とし、将来的には体験学習の場としての活用を図るものとする。

③ 芝生広場

来訪者や周辺住民の憩いの場として墳丘北側に芝生広場を配置し、水飲みやベンチを設置する。

④ 古墳時代の周辺地形模型

古墳館に隣接し、古墳時代の水見地方の想像地形模型を設置する。

⑤ 土取場跡地の埋め戻し

墳丘西側に隣接している土取場跡地については、墳丘本体の崩壊や来訪者の安全性を考慮し、埋め戻すこととした。また、埋め戻しに際しては、古い地形図から当該箇所が谷地形であったことから、直線的な埋め戻しではなく、谷地形を表現した埋め戻し造成を行うこととする。

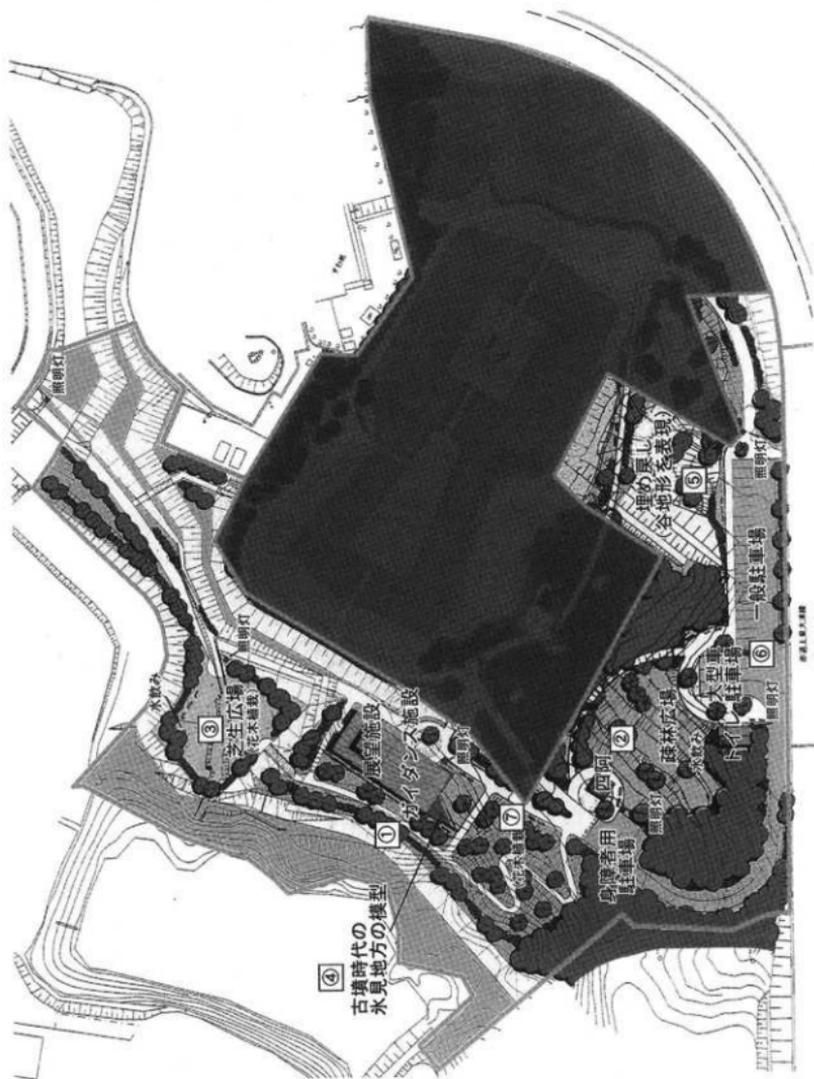
⑥ 駐車施設

対象地内の歩行者の安全性を考慮し、駐車施設は入口部である市道上泉大浦線沿いに配置し、大型車3台分、一般車20台分を確保し、トイレ及び案内板を設置する。なお、対象地は高低差があり、墳丘や古墳館が高所に位置することから、身障者用駐車場を高所に配置した。

⑦ 園路・その他

園路舗装を行い、適宜ベンチを設置するとともに広場部等に照明灯を設置する。

古墳館西側の広場や芝生広場については、将来的に統一的な花木等（在来種）の植栽により特徴ある空間の形成を目指すこととする。



第12図 周辺部分の整備計画

(3) 整備事業の概要

史跡部の整備事業は、文化庁の国宝重要文化財等保存整備事業に採択され、史跡等総合整備活用推進事業費国庫補助要項に基づき「柳田布尾山古墳史跡等総合整備活用推進事業」の名称で、国庫補助対象事業となった。

平成15年度から3か年で、実施設計、整備工事等を行い、平成18年3月に事業を完了した。

また、周辺部の整備事業も、史跡部の整備事業と合わせて実施した。

(a) 史跡部の事業概要

(単位 千円)

| 年度 | 整備等の内容 | 金額 | 財源内訳 | | |
|----|---|---------|--------|--------|--------|
| | | | 国庫補助金 | 県補助金 | 一般財源 |
| 15 | 測量委託、実施設計委託 盗掘坑埋め戻し作業委託、工事監理委託 整備工事（墳丘斜面へのコグマザサ植栽、 階段の設置等） | 90,800 | 45,350 | 22,675 | 22,775 |
| 16 | 水路測量設計委託、工事監理委託 整備工事（周濠、園路等の整備） 植栽工事、屋外模型（古墳模型）製作 圍名石・解説板設置工事等 | 38,075 | 19,037 | 9,518 | 9,520 |
| 17 | 解説板等設置工事、植栽工事等 | 7,979 | 3,989 | 1,994 | 1,996 |
| | 合計 | 136,854 | 68,376 | 34,187 | 34,291 |

設計施工業者（史跡部）

| 区分 | 設計施工業者名 |
|----------|-------------------------------------|
| 全体実施設計 | 大日本コンサルタント(株)北陸支社 |
| 15年度整備工事 | 立山土建(株) |
| 16年度整備工事 | (株)水見土建、昇永工業(株)、日精(株)、(株)植哲、第一交易(株) |
| 17年度整備工事 | (株)御井工務店、富山興業(株) |

(b) 周辺部の事業概要

(単位 千円)

| 年度 | 整備等の内容 | 金額 | 財源内訳 | | |
|-----|---|---------|--------|---------|-------|
| | | | 県補助金 | 市債 | 一般財源 |
| 15 | 測量委託、実施設計委託 地質調査委託、工事監理委託 整備工事（造成工、排水施設の整備等） | 34,631 | 1,765 | 31,100 | 1,766 |
| 16 | 整備工事（園路、四阿整備等） 法面保護工事、電気設備工事 トイレ新築工事設計委託 トイレ新築工事監理委託 トイレ新築工事（建築本体、給排水衛生設備） 植栽工事、屋外模型（古墳時代地形模型）製作 古墳館新築工事設計委託等 | 79,004 | 7,904 | 71,100 | |
| 17 | 古墳館新築工事監理委託 古墳館新築工事（建築本体、電気設備、給排水衛生設備） 植栽工事、案内板等設置工事 古墳館展示パネル製作委託等 | 70,433 | 16,914 | 53,200 | 319 |
| 合 計 | | 184,068 | 26,583 | 155,400 | 2,085 |

設計施工業者（周辺部）

| 区 分 | 設計施工業者名 |
|----------|--|
| 全体実施設計 | 大日本コンサルタント㈱北陸支社 (トイレ新築工事設計は雄飛建築設計事務所) |
| 15年度整備工事 | 昇永工業㈱ |
| 16年度整備工事 | 昇永工業㈱、森長電化工事商会、水口工業㈱、(株)山徳設備 日精㈱ |
| 17年度整備工事 | 東工業㈱、㈱紅井電気商会、(株)七トク工務店、富山興業㈱、 山崎園芸、北日本造園㈱ |

史跡部の整備事業

柳田布尾山古墳は発見された時点で、後方部中央に直径約10m、深さ約4mにわたる大きな盗掘坑が開けられていた。また、この分の排出土は、後方部南側斜面に押し出されて堆積していた。史跡部の整備にあたり、盗掘坑を排出土によって埋め戻し、本来の墳丘の姿に戻すことになり、その作業を平成15年8月19日から10月29日まで、市教委が主体となって行った。

作業は水見市シルバー人材センターの協力を得て、全て手作業で行い、排出土は全てふるいに通した。

その後、墳丘頂部には遺構保護のため5～10cmの厚さで土砂を敷き、墳丘斜面にはコグマザサの植栽を行った。墳丘にあった樹木は竹・杉は全て伐採、その他の落葉樹を調整して現況の林を残す予定であったが、現地は風通しが良いため、根付きのしっかりした約20本の樹木しか残せなかった。

墳丘には見学者のルートとして、前方部に2箇所、後方部に1箇所、前方部と後方部の間に1箇所、階段を設置した。盗掘をうけていない2号墳は、墳丘全体にコグマザサを植栽し、遺構全体を保護するようにした。

各周濠については形状に沿って玉石を配し、内側に砂利を入れて表示を行った。主体部には粘土楕があたりと推定される位置を、レンガを使って平面表示した。

前方部北側の周濠脇に、史跡標識と説明板を設置し、埋葬施設、陸橋、2号墳についてはそれぞれ解説板を設置した。

また標識の西側には古墳と方位を合わせて、立体模型を設置した。

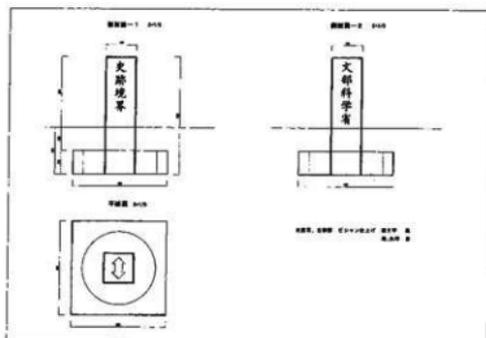
墳丘西側の平坦面は、既存の杉林をそのまま残して緑地帯として利用する計画であったが、平成16年の台風23号の被害で全て倒れてしまったため、これらを除去し、改めて落葉樹の植栽を行った。

史跡境界には石造りの境界標を各屈折点に設置した。

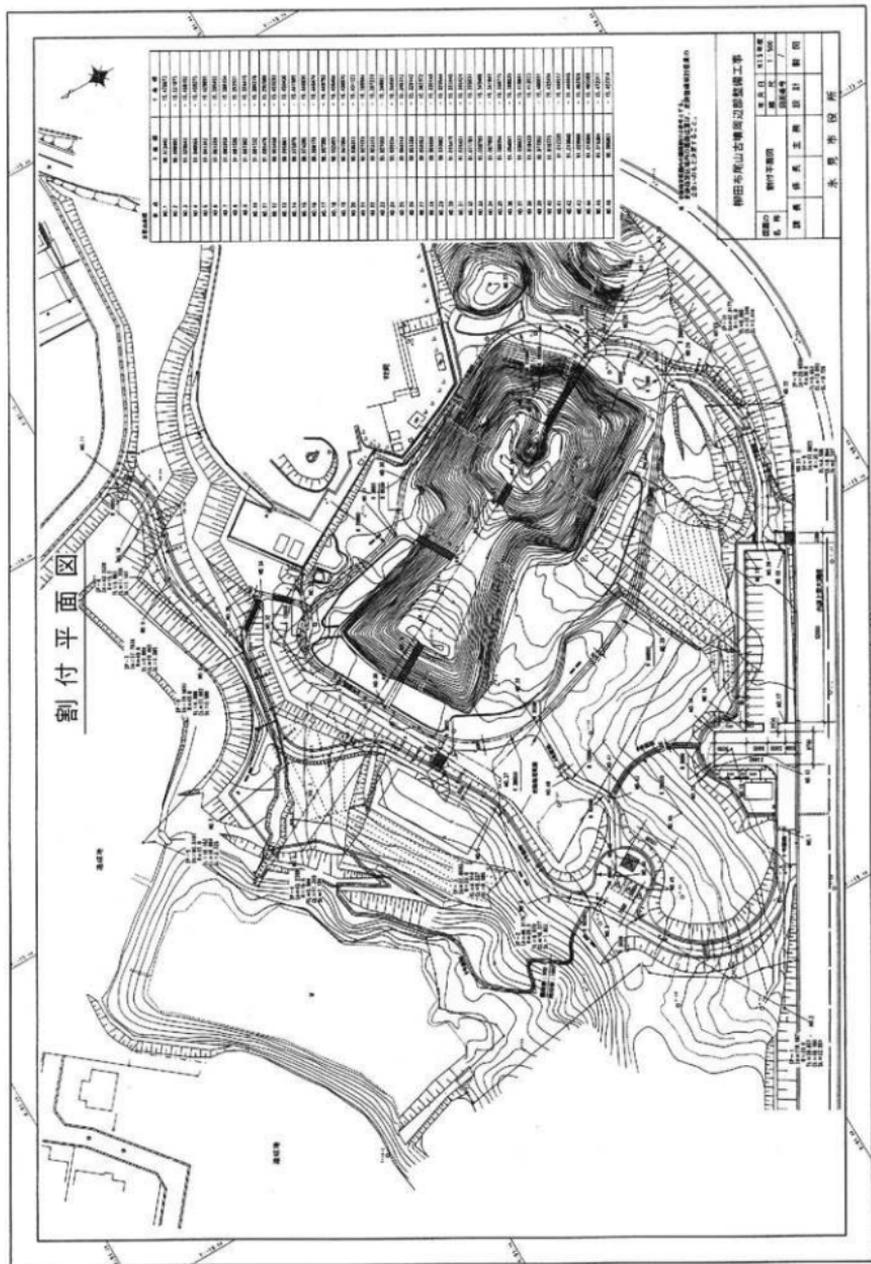
周辺部の整備事業

周辺部には駐車場、トイレ、管理用道路、園路、西阿、水飲み場、ベンチ、古墳時代周辺模型、古墳館、広場、案内板等を設置した。

史跡部と同じく、緑地帯として残した既存の樹木が台風で倒れたため、一部は落葉樹を改めて植栽し、その他の地区はチップ化したものを敷き詰めておいた。



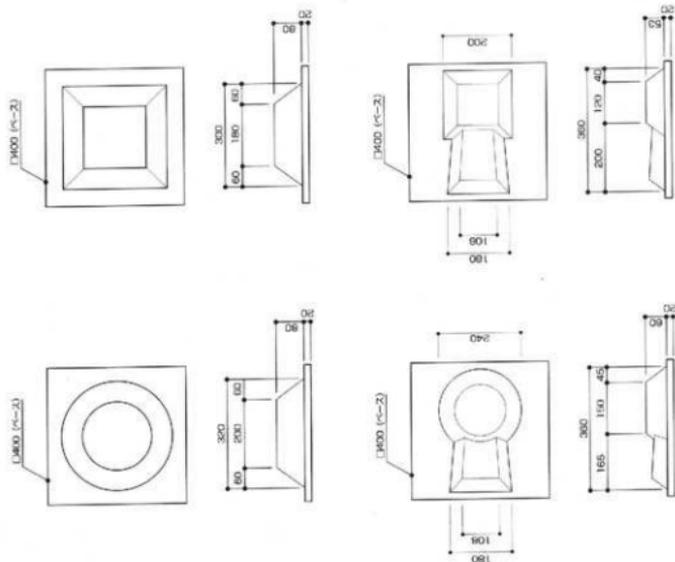
第13図 史跡境界標



第14図 整備工事平面図

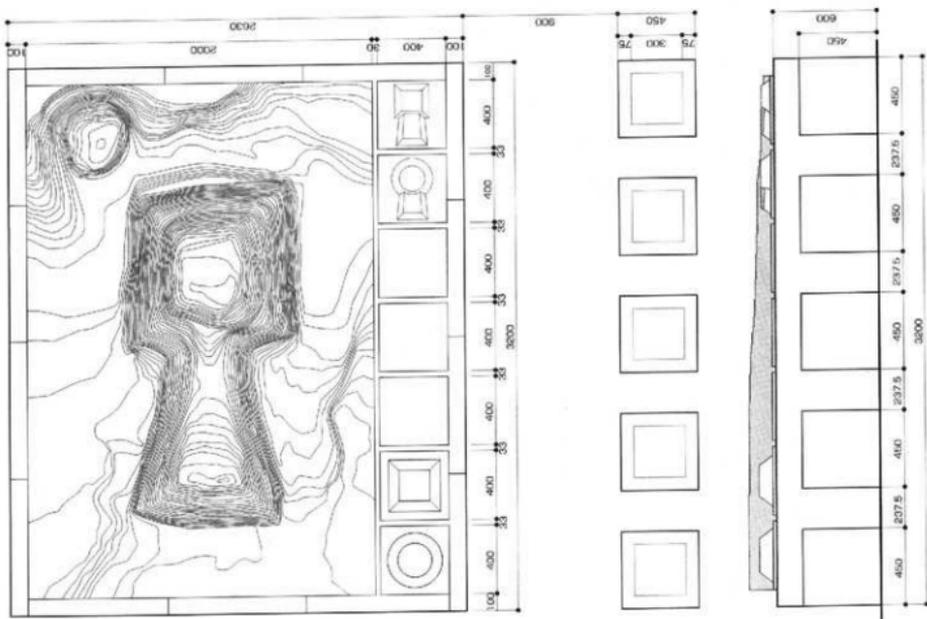


第15図 植栽計画図



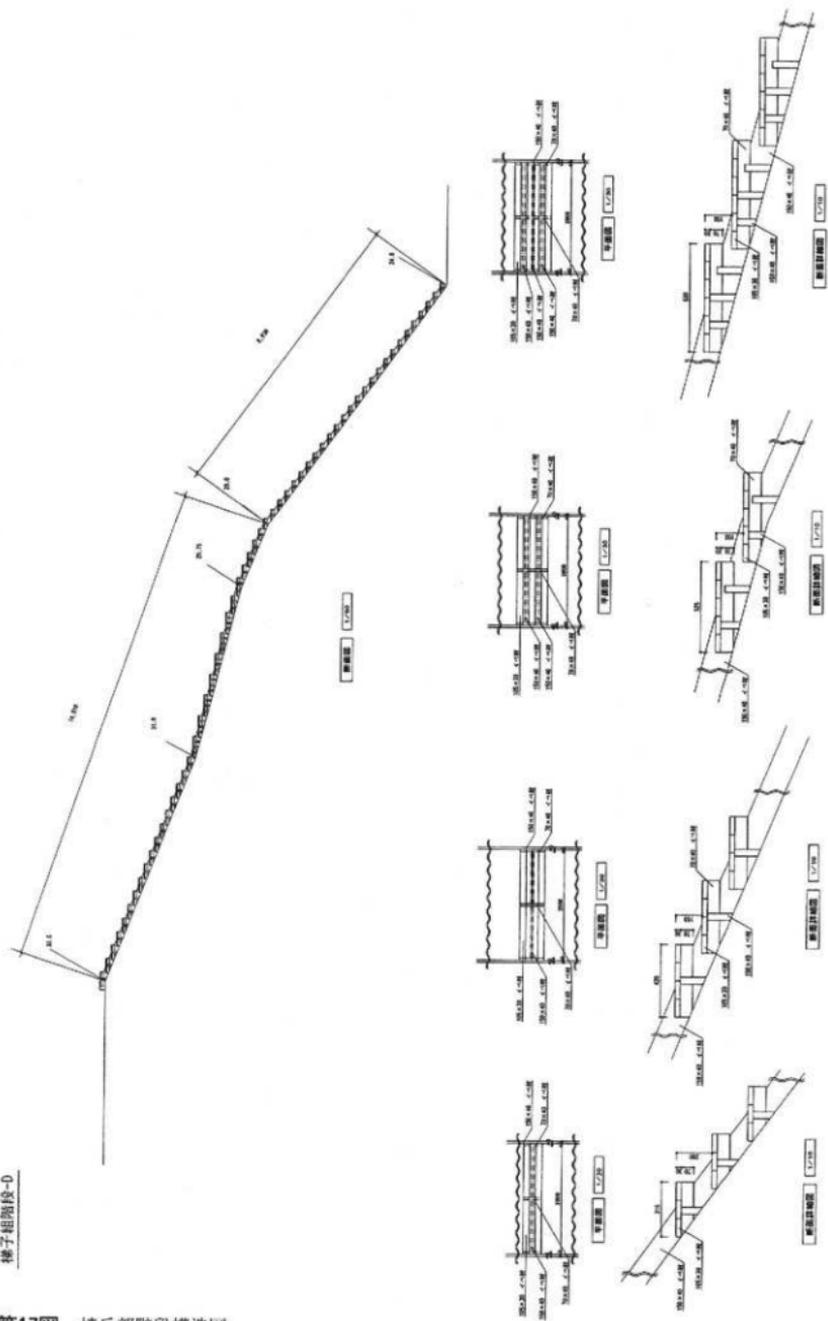
補足事項

- ・凸エッジに関しては、基本的にR (R=5程度) を付けます。
- ・表面については、細かい凸を付けます。
- ・古墳のノリ面の角度は、3/4勾配を基本としています。

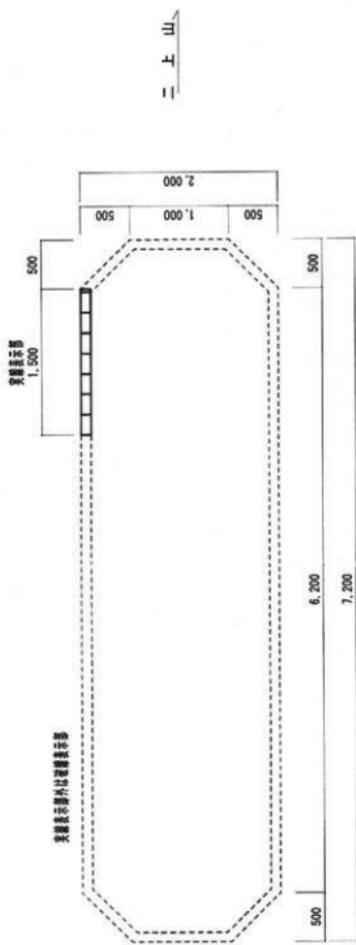


第16図 古墳模型

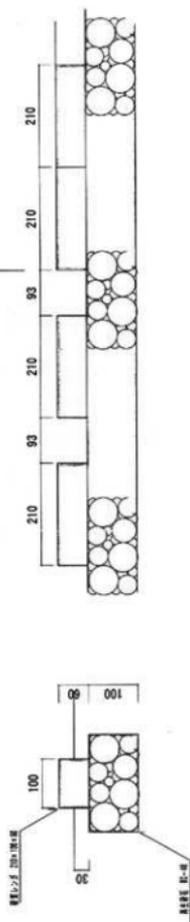
第17図 填丘部階段構造図



平面图 1:100

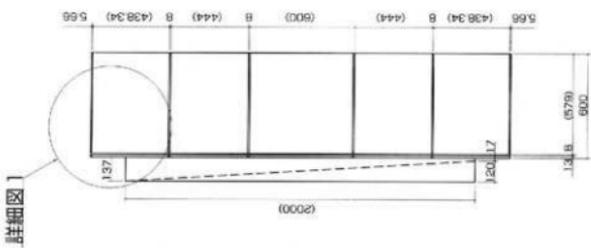
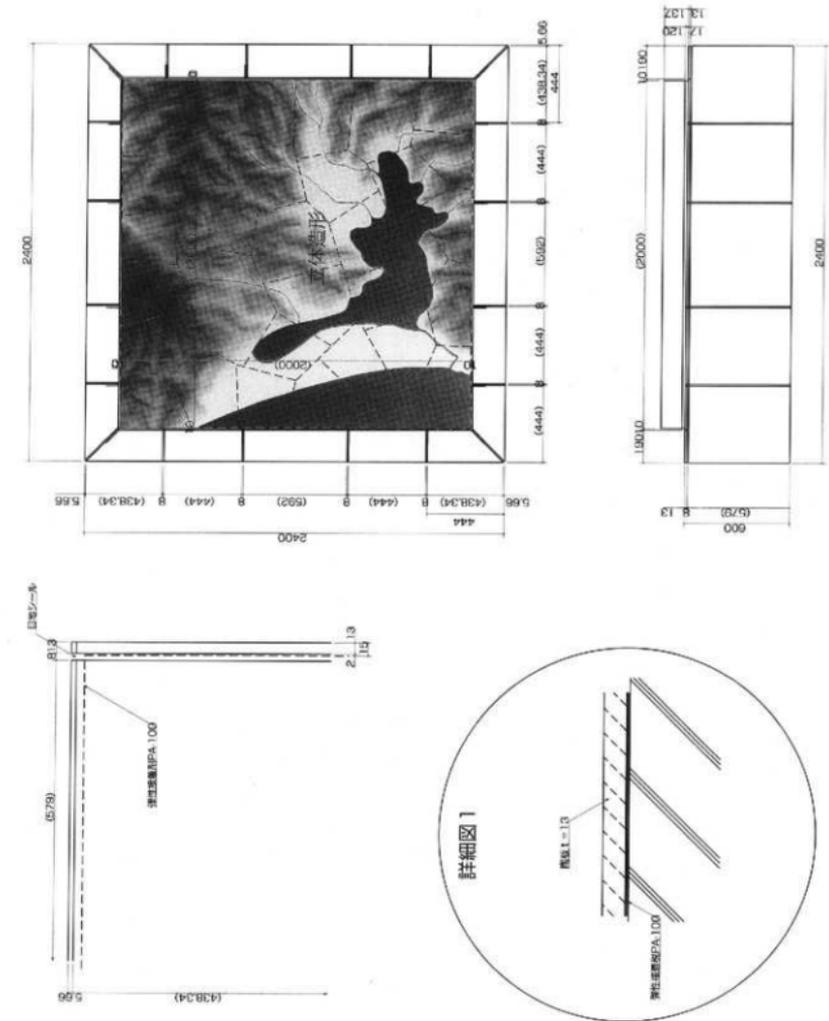


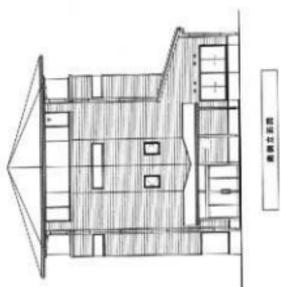
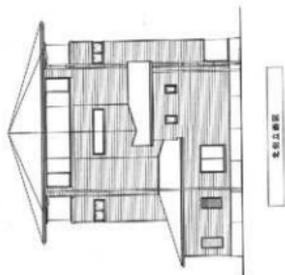
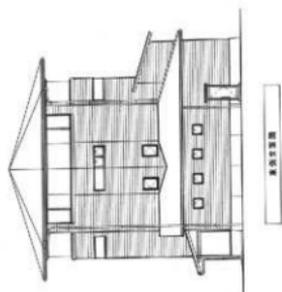
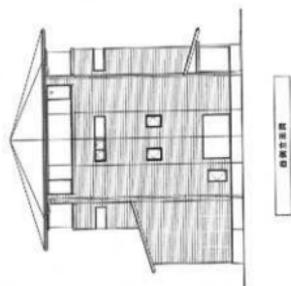
構造図 1:10



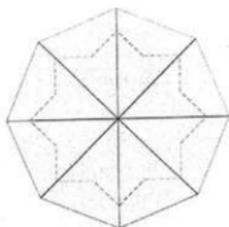
第18図 粘土板表示施設

第19図 地形模型

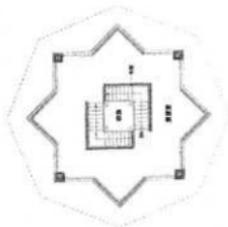




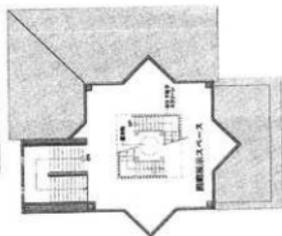
基本計画



2階平面図



1階平面図

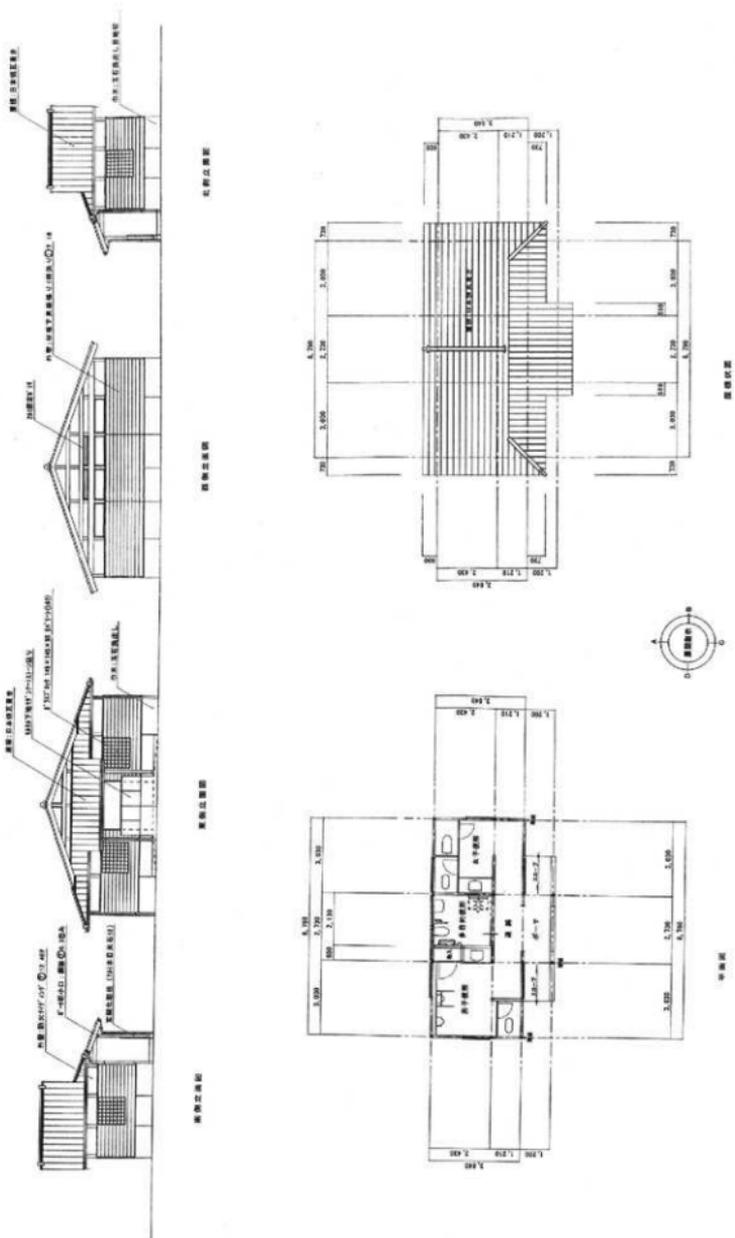


3階平面図



第20図 古墳館

第21図 トイレ



(4) 管理・利用計画

水見市柳田布尾山古墳公園条例

(設置)

第1条 史跡柳田布尾山古墳に対する歴史遺産としての理解を深めるとともに、文化の向上に資するため、水見市柳田布尾山古墳公園（以下、「古墳公園」という。）を設置する。

(位置)

第2条 古墳公園の位置は、次のとおりとする。

水見市柳田字布尾山34番地

(施設)

第3条 古墳公園に次に掲げる施設を置く。

- (1) 史跡柳田布尾山古墳
- (2) 柳田布尾山古墳館
- (3) 前2号に掲げるもののほか、第1条の目的を達成するために必要な施設

(入園の拒否及び制限)

第4条 水見市教育委員会（以下「教育委員会」という。）は、古墳公園に入園しようとする者が次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、入園を拒否することができる。

- (1) 古墳公園の秩序又は風紀を乱すおそれがあるとき。
 - (2) 施設、付属設備等（以下「施設等」という。）を汚損し、又は損傷するおそれがあるとき。
- 2 教育委員会は、古墳公園の管理上必要があると認めるときは、入園を制限することができる。

(遵守事項等)

第5条 古墳公園に入園した者（以下「入園者」という。）は、次に掲げる事項を守らなければならない。

- (1) 他の入園者に迷惑となる行為をしないこと。
 - (2) 施設等を汚損し、又は損傷しないこと。
 - (3) 施設等を汚損し、又は損傷するおそれのある物品等を持ち込まないこと。
 - (4) その他教育委員会が特に指示した事項
- 2 教育委員会は、入園者が前項の規定に違反したときは、その者に退園を命ずることができる。

(損害賠償)

第6条 入園者は、古墳公園の施設等に損害を与えた場合には、市長が相当と認める損害額を賠償しなければならない。ただし、市長がやむを得ない理由があると認めるときは、その全部又は一部を免除することができる。

(教育委員会規則への委任)

第7条 この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

この条例は、教育委員会規則で定める日から施行する。

水見市柳田布尾山古墳公園条例施行規則

(趣旨)

第1条 この規則は、水見市柳田布尾山古墳公園条例（平成18年水見市条例第4号）の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

(古墳館の開館時間)

第2条 柳田布尾山古墳館（以下「古墳館」という。）の開館時間は、午前9時から午後4時までとする。ただし、水見市教育委員会（以下「教育委員会」という。）は、特に必要があると認めるときは、臨時にこれを変更することができる。

(古墳館の休館日)

第3条 古墳館の休館日は、次に掲げるとおりとする。ただし、教育委員会は、特に必要があると認めるときは、これを変更し、又は臨時に休館日を定めることができる。

- (1) 月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たるときは、その日以後の最初の休日でない日）
- (2) 休日の翌日（その日が日曜日又は土曜日に当たる場合を除く。）
- (3) 12月1日から翌年の3月14日までの日

(損傷又は滅失の届出)

第4条 水見市柳田布尾山古墳公園（以下「古墳公園」という。）の施設、附属設備等を損傷し、又は滅失した者は、直ちにその旨を教育委員会に届け出て、その指示に従うものとする。

(古墳公園の区域)

第5条 古墳公園の区域は、教育委員会が定めて公告するものとする。

(細則)

第6条 この規則に定めるもののほか、古墳公園の管理に関し必要な事項は、水見市教育委員会教育長が定める。

附 則

この規則は、平成18年4月8日から施行する。

圖 版



1. 公園正面入口



2. 駐車場からの登り道



3. 史跡内植栽の様子



1. 史跡標柱



2. 古墳模型



3. 古墳模型と墳丘



1. 墳丘東側面



2. 墳丘西側面



3. 2号墳全景



1. 史跡解説板



2. 陵構造解説板



3. 2号墳解説板



1. 前方部の状況



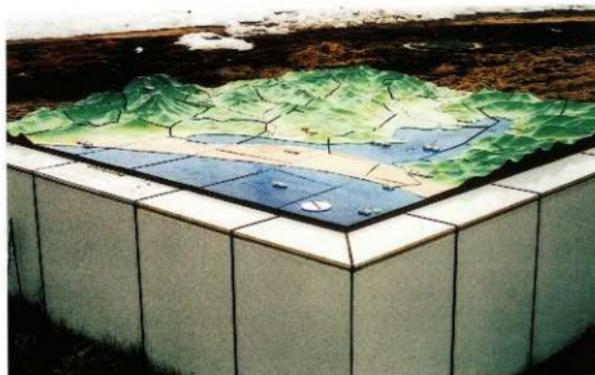
2. 後方部の状況



3. 埋葬施設の表示



1. 古墳館全景



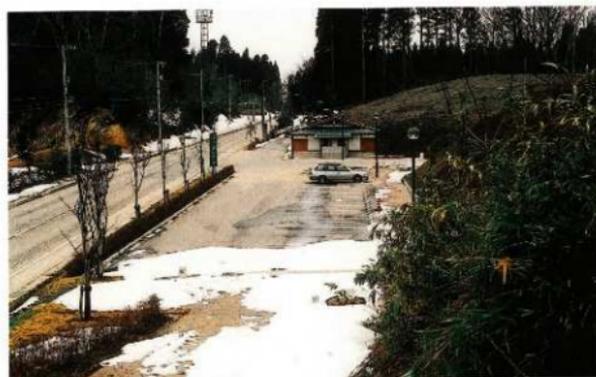
2. 古墳周辺地形想定模型



3. 史跡境界標



1. 東屋



2. 駐車場



3. トイレ



1. 平成12年度柳田布尾山古墳現地博物館会場



2. 平成12年度柳田布尾山古墳現地博物館会場
古墳展望用足場



3. 平成12年度「王者の装い展」会場



4. 平成12年度とやまの古墳教養講座 講師 西井能備氏



5. 平成12年度とやまの古墳教養講座 講師 岸本雅敏氏



6. 平成12年度とやまの古墳教養講座
現地学習（史跡安田城跡）



7. 平成13年度シンポジウムの様子



8. 平成13年度シンポジウム
大塚初重氏と里中満智子氏のトーク



1. 仮置土のう袋除去



2. 盗掘坑排土の掘削、引き上げ作業



3. 盗掘坑排土のふりい掛け、埋め戻し作業



1. 墳丘部伐採作業



2. 伐採済樹木搬出用切断作業



3. 伐採後の状況



4. 再利用チップ加工作業



5. 再利用チップ敷均作業



6. 保護盛土部清掃作業



7. 保護用土砂搬入作業



8. 保護用盛土敷均作業



1. コグマザサ吹付け作業



2. コグマザサ吹付厚確認作業



3. コグマザサ植生ネット張作業



4. コグマザサ植付作業



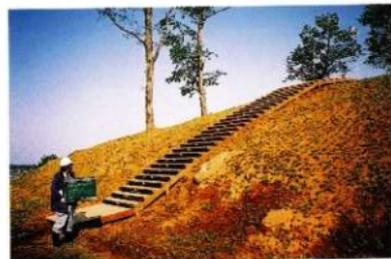
5. コグマザサ植栽数確認作業



6. コグマザサ散水養生作業



7. 階段設置工事



8. 階段設置状況



1. 台風で倒れた史跡内の樹木



2. 史跡部植栽作業



3. 周濠縁石設置作業



4. 周濠敷砂利作業



5. 粘土標表示施設設置作業



6. 古墳模型原型製作作業



7. 古墳模型轉型製作作業



8. 古墳模型表面研磨仕上げ作業

**史跡柳田布尾山古墳
整備事業報告書**

平成18年3月18日印刷

平成18年3月22日発行

編集・発行 水見市教育委員会

〒935-0016

富山県水見市本町4番9号

☎ 0766-74-8215

印刷 株式会社トーザワ